

全自動透析システムの現状と今後の課題

(医) 衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック

北田恭平 林田征俊 田中健 矢野利幸 高木伴幸 橋口純一郎 原田孝司
船越 哲

【背景】

全自動透析システムの普及により、血液透析業務は省力化されたが、透析中のトラブル時には従来の手動操作で対応しなければならない。

【目的】

当院で全自動透析システムを本格的に導入して 5 年が経過するが、導入後のトラブル対応能力に与えた影響を調査する。

【対象・方法】

当院血液透析従事スタッフ 63 名を対象に、透析技術に関するアンケート調査を実施し、透析従事年数（手動システムの経験の有無）の違いによるトラブル対応能力の差異を検討した。

【結果】

血液透析中のトラブルに対応可能と回答したスタッフは、全体の 41～55%であり、約半数のスタッフで手動操作に不安を抱いている傾向であった。意外にもアンケート項目（10 項目中 8 項目）において透析従事年数とトラブル対応間に差は認められなかった。

【考察】

今回の検討では、本来あると予測された血液透析の熟練度での差は認められず、全自動透析システムがトラブル対応能力を低下させる可能性が示唆された。